

村上市立金屋小学校



学校データ

【学級数】

8学級

【児童数】

98人

【地域コーディネーター】

有

地域に学び地域を考える子の育成

1 はじめに

当校の学区は、荒川地区の中でも田畑の広がる自然豊かな地域にある。創立から145年を迎える学校であり、地域の学校に寄せる期待は大きい。しかし、子どもの数が減少傾向にあり、歴史と伝統を引き継いでいくためにも、より地域の特色を生かした地域とともに歩む学校づくりを展開し、一人一人の個性を生かした教育活動に力を注いでいくことが求められている。

今年度は、村上市のコミュニティ・スクールのモデル校として、地域の方々の参画を得て、協働で教育活動を行う学校を目指している。

2 取組の実際

(1) 青空教室(全校)

当校では、平成10年度から続く体験的学習「青空教室」を一大行事と位置付け、保護者・地域そして、関係機関と一体となった活動をしている。

今年も清流荒川を考える会の方から荒川の野鳥、魚等について、ボランティアの方からは、川浮遊、魚取りや川舟乗船についてのワークショップを開



野鳥の観察



川魚の観察

いていただき、縦割り班で15分ずつローテーションした。

さらに昼食に保護者やOBが、市役所荒川支所の防災用炊き出しセットで、味噌汁や鮎の塩焼きをつくってくださったものをいただいた。



川舟乗船



川浮遊

(2) 荒川調査(3年生)

荒川の自然にかかわる活動を総合的な学習の時間に計画的に取り入れ、鮭の稚魚の餌やり、観察、放流及び、国土交通省羽越河川国道事務所が主催する荒川の水生生物調査、水質調査、水害の歴史調べ等を行った。



水生生物調査

(3) お年寄りとの交流(1・2年生)

老人会との交流会では、一緒にグラウンドや畑の草取りをした後、体育館でよさこいソーランを見ていただいたり、肩揉みやお茶出しをしたりして、労をねぎらった。

そして最後に、玉入れをしていただいて、自分たちも一緒に楽しんだ。



ふれ合い活動

(4) 福祉施設への訪問(4年生)

特別養護老人ホーム「村上まごころの里」と、デイサービスセンター「くろっかす」へ訪問した。音楽発表や優しくマッサージをするなどのふれ合い活動を行い、子どもたちは、お年寄りが喜ぶ姿を見て、年配者を思いやる気持ちや、自分も役に立ったという気持ちをもつことができた。

(5) 米作り(5年生・全校)

全校で田植え(5月)、稲刈り(9月)、収穫祭(11月)を行う。

また、社会科で農業を学習する5年生は、苗床に種籾を蒔くところから米作りを始め学校の敷地内にある学校田で、随時、田起こしや代掻き等の見学、稲の観察、水の管理等の世話をを行った。



稲刈り

(6) つどい場「おらだり」(6年)

「おらだり」とは、私たちの意味。昨年度、市役所荒川支所地振興課と市集落支援員の働きかけで始まった。

昨年度は、1月に金屋地区集会所で開催され、6年生がそこで、お年寄りとのふれあい活動をしたり、振る舞い汁を食べたりした。

時期が雪の時期であることと、金屋集会所であるということで、校区の他地区のお年寄りが参加しづらいという課題が残されていた。

そこで、今年度は、10月の文化祭と同時開催で行うこととした。しかし、子どもたちの活動が、PTA主催のバザーや育成会主催の市とかちあうことが新たに課題として浮上した。

そこを9月のおらだり作戦会議で解決した。



おらだり作戦会議

10月に行われた文化祭には、子どもと、保護者と、地域の意見がそれぞれ反映され、子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校」の姿を具現することができた。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

学校と保護者・地域そして、関係機関とが一体となって活動することにより、地域に根ざした教育活動が展開され、信頼関係を基にした相互扶助の関係、いわゆるWin Winの関係が構築された。

また、子どもたちは、自ら考えた計画の実効性を大人と話し合うことで、主体的で対話的な学びの場が創出され、異なる意見や他者の考えを受け入れて、尊重しようとする資質・能力が育まれた。

そして、子どもたちは、福祉施設や高齢者との交流活動を通して、共生することの大切さにふれ、自分のよさを見直したり、自分も地域の一員であると自覚するようになったりした。

さらに、子どもたちは、地域の中心産業である米作りを一から体験することで地域に対する関心が高まり、収穫祭という目標に向かって取り組むことで、体験を通じた深い学びをすることができた。

また、収穫祭では、保護者や地域の方に、その学びを表現することもできた。

課題としては、コミュニティ・スクール元年のため、計画や運営の中心が依然として学校の活動が多く、教職員の異動等で、持続可能な活動かどうか心もとない点が上げられる。

4 おわりに

以上のように多様な人々との協働を促す教育をすることにより、知識の獲得だけではなく、地域を学びの場とした主体的な学びが実現し、言語活動等の学習の基盤をつくる活動の充実が図られた。

国を挙げて取り組んでいる働き方改革も視野に入れながら、チーム金屋で熟議して、取組をさらに進めていきたい。